

## 伊与喜小が南郷小へリモートで防災プレゼン授業

1月14日(金)、南郷小学校6年生に向けて、伊与喜小学校の5、6年生がリモートで防災のプレゼンテーション授業を行いました。

同授業は、町が主催し南郷小学校で行われている防災訓練への参加率を向上させるための取組を行うにあたって、津波以外の新たな視点を知ること、今後の活動の方向性の参考にしたいと南郷小学校が企画したもの。

伊与喜小学校の児童は、ワールドワークや聞き取りで学習した土砂災害の話や防災アプリなどについてプレゼンし、「災害が起きたらとにかくすぐ避難して」と呼びかけました。



プレゼンを聞く児童

南郷小学校6年生の齊藤陽愛さんは、「わからないことが知られて良かった。アプリも親に頼んでダウンロードしておもう。自宅の裏が山なので気を付けたい」と話しました。

## 大方高校生と芝地区住民が逃げトレ活用し避難訓練

1月5日(水)、大方高校地域創造コースの2、3年生や芝地区の住民、そのほか関係者約35人で、逃げトレを活用した避難訓練が実施されました。

京都大学が開発した津波の浸水状況を確認しながら避難訓練ができるアプリ「逃げトレ」を活用し、芝地区の住民とともに4チームに分かれて、それぞれ違うシミュレーションで宮川公園から庁舎前広場まで避難しました。

参加した同校2年生の伊与田唯さんは、「年代が違う方との訓練だからこそ気付けたことが多かった。いろいろなパターンで検証ができて良かったし、貴重な経験になったと思う」と話しました。



救助者をリヤカーで引きながら避難をする参加者

また、同地区・区長の坂本あやさんは、「普段行っている自宅から避難を開始する避難訓練とは違い、地区外からの避難は初めて。良い経験になった」と話しました。

## まほろば Vol.15 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



### 丸昭果樹園 橋田 昭和さん

父の農園を継ぎ、規模を拡大しながら露地文旦、水晶文旦を育ててきた橋田さん。文旦のほかにも、ミヨウガなどの栽培に励みながら、家族や従業員とともに日々果樹園を運営している橋田さんにお話を聞きました。

文旦を作るようになったきっかけとこれまでの経緯は?

元々両親が蜷川で農業をしていました。私は、一度は音楽の道をめざして上京したのですが、母の体調が悪くなったことを機に、家業を手伝うため25歳の時にUターンして父の手伝いをするようになりまし。それからだんだんと農業が面白くなったことがきっかけです。

今は文旦(露地・ハウス)、ミヨウガを主に育てていますが、Uターン当初はハウスみかんやポンカンも作っていました。

30年程前に町で盤整備が行われるタイミングで、ハウスを一度壊すことになりました。文旦の方が育てやすいと感じていたこともあり、それからハウスみかんをやめ、水晶文旦

の栽培を始めました。そのほか蜷川や鞭などでは土佐文旦を、また、ミヨウガの栽培も行っています。

土佐文旦は、当時県内でも有名だった土佐市の方に教えていただき、そのおかげで上達できたと思います。

文旦作りで大変なことは?

丸昭果樹園では、文旦だけでなくミヨウガも作っているため、11月から12月にかけては

文旦作りのやりがいや嬉しかったことは?

1年の間に複数回収穫ができるミヨウガとは違い、文旦は1年かけて世話をして1年1度しか収穫できません。その分、購入してくれた方が「今年も美味しい」と言ってくると、「来年も頑張ろう」と思いますね。

今は一緒に農業をしている息子に期待しています。



追熟させながら2月の出荷を待つ文旦



水晶文旦の計量の様子

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介します。裏表紙のQRコードからご確認ください。